

資料館だより

第 27 号
令和5年3月



《巻頭写真》玉川上水下流域を歩く講座風景 小平監視所
(関連5ページ)

目 次

巻頭写真・目次	1
郷土立川ゆかりの野草と樹木	2
玉川上水下流域を歩く	5
令和4年度 資料館・古民家園の催し	6

郷土立川ゆかりの野草と樹木

立川市文化財保護審議会委員 内野秀重

立川市は、市域の9割以上が平坦な武蔵野台地上に位置しており、近世における玉川上水整備を契機とした新田開発や街道整備を基盤に、近代から今日にかけては著しい市街化や都市化が進み、江戸時代までの農村的自然環境も大きく変容してきました。とりわけ、昨今の激変とも言える立川市の都市化のなかで、市内に生育する野草や樹木、また、それらから構成される植生がどのように変化したのかを知ることは、生物多様性保全の観点、ひいては市民の健康な生活に必要な生態系を考えるうえでもきわめて重要なことです。

ところで、立川市内にはどれくらいの種類数の植物が生育しているのでしょうか？幸いなことに、植物研究家の^{あぜがみちから}畔上能力氏が1993年に市域の植物相調査（文献及び現地調査）を行い、785種の植物をリストアップするとともに、当時、文化財保護審議会委員であった鈴木功氏は、それらの植物が市内のどのような地域に生育しているのかを分布概況としてまとめています（立川市教育委員会1994立川の自然調査報告書）。こうし

た市内自生植物のリストは、いわば植物の住民基本台帳とも呼べるもので、市内の自然環境を評価・検討するうえで基本的な資料となるものです。この資料を参考にすると、立川市らしい郷土の野草や樹木と呼ばれるものが浮かび上がってきますし、それらが武蔵野台地部に断片的に残る里地、玉川上水沿いの緑地、矢川水源湿地、武蔵野台地立川面の段丘崖緑地、そして多摩川左岸沖積低地などに集約されることがわかります。従来、市内各所に自生し、植栽もされるケヤキやコブシ、ヤブツバキなどが立川の武蔵野的景観を形成する象徴的な樹木として取り上げられることが多かったように思いますが、都市化の中を生き抜いてきた立川ゆかりの植物はそれだけにとどまりません。段丘崖に残るオドリコソウやニリンソウなどの春植物、そしてシロバナタンポポ、矢川湿地の水湿生植物であるミソホオズキやナガエミクリ、多摩川河川敷のテリハノイバラやヤナギ類、玉川上水沿いに生育するノカンゾウやナンテンハギ、ヒトツバハギなどの草原性植物なども、大切に



オドリコソウ
柴崎町



ナガエミクリ
羽衣町矢川緑地保全地域



ナンテンハギ
上砂町玉川上水左岸 残堀川-新家橋間



アキノキリンソウ
幸町5丁目保護樹林地



ニリンソウ 富士見町富士見緑地
したい立川を特徴づける野草や樹木たちです。こうした植物の多くは自生地の開発や環境の変化等により生育地が狭められ、東京都内では絶滅が危惧される植物として指定されているものも多く含まれていることから、行政や市民が協力してこれらの植物の生育する環境を保全していくことが大切です。なお、過去に調査を行った市内の植物リストがあるおかげで、こうした市域の重要な植物が抽出できるのですが、すでにこの調査結果から30年が経過しており、再調査による情報の更新が必要な時期を迎えています。つまり、過去にリストアップされた植物が今も市域にあるかないかをモニタリングし、新しい外来植物の動向を把握する調査を行う必要があるのですが、立川市が現在行っている市民参加の「生きものデータベース」づくりなども参考に、現地調査を加味すれば、比較的容易に市域の

自生植物リストの更新を行うことができるはずですが、これが実現すれば、この30年の劇的な都市化で立川市の植物相がどのように変化したかが明らかとなり、市域の今後の生物多様性戦略や環境計画の策定にも大切な情報源となることでしょう。

最後に、この小文では国営昭和記念公園エリアを郷土の植物対象地域に含めていませんが、その理由は、1983（昭和58）年に立川基地跡にできた昭和記念公園は、多摩ニュータウン造成で削られた膨大な多摩丘陵の土が盛られてからまだ歴史が浅く、地勢に基づく立川ゆかりの植物を考えるうえでは同列には扱えないと判断したからです。しかし、昭和記念公園では積極的な武蔵野の自然の再現にも取り組んでおり、将来的には立川の自然の一部を担う場所として一体的な評価や検討の対象となる日が来るものと予想されます。

立川市歴史民俗資料館
公式 Twitter
開設しています!!

企画展や体験学習などの資料館・古民家園のイベントのほか、立川市内の歴史や自然のことなど、色々な情報を発信していきます!

よかったらフォローをお願いします。



@tachikawa_rekim

玉川上水下流域を歩く

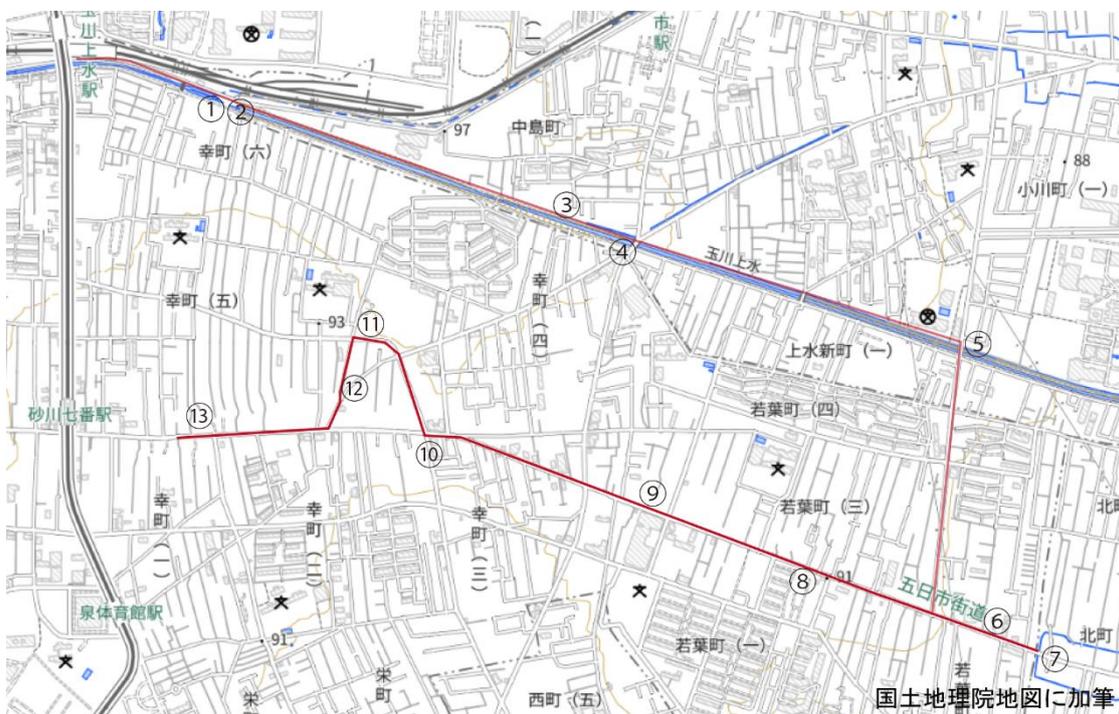
令和4年11月20日（日）に市内文化財散歩「玉川上水下流域を歩く」を開催しました。

遊歩道の中などを散策しながら、国指定史跡（平成15年指定）である玉川上水の歴史や周辺の文化財を勉強しました。講師には小坂克信氏（立川市文化財保護審議会副会長・産業遺産学会水車と臼分科会代表）を迎え、道中の要所で解説をしていただきました。

今までは、市内文化財散歩「玉

川上水を歩く」（西武立川駅から玉川上水駅までを歩くコース）を開催していましたが、昨年度から玉川上水駅から東側を歩くコースとして「玉川上水下流域を歩く」を新たに追加しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者には体温の測定、マスクの着用などをお願いしました。曇天ではありましたが雨には降られず、全長約6kmを無事に歩くことができました。



コース概要（集合：午前8時45分）玉川上水駅→①小平監視所→②清流復活の碑→③新堀用水（胎内掘）→④小川橋（石橋供養塔、高札場跡、小川分水口・新堀用水口）→⑤百石橋→⑥五日市街道→⑦砂川用水（旧南野中分水跡）→⑧出羽三山供養塔→⑨中藤分水口跡→⑩砂川分水跡→⑪古民家園→⑫馬頭観世音→⑬砂川八番増田水車跡（解散：午前11時50分）

令和4年度 資料館・古民家園の催し

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策による一般公開休止日が、3年ぶりにありませんでした。資料館・古民家園では企画展・体験学習などの催しを行いました。その一部を紹介いたします。

1. 企画展 多摩川と立川～利水と災害～

近年、集中豪雨などの水害が相次ぎ、甚大な被害をもたらしています。立川市南端を流れる多摩川は古くから氾濫を繰り返してきました。江戸時代以降の利水と水害の歴史を振り返りました。開催期間は42日間で延べ648名の来館者がありました。関連講演会として11月3日(木・祝)に、「多摩川と水害ー立川市を中心にー」を開催しました。講師に小坂克信氏を迎え、参加者は27名でした。

2. 多摩郷土誌フェア関連講演会 「多摩の地域史料と新選組」



1月21日(土)・22日(日)には女性総合センター・アイムにて、多摩地域の22市町が参加する多摩郷土誌フェアが3年ぶりに開催されました。21日に関連講演会「多摩の地域史料と新選組」を企画し、講師に三野行徳氏(昭^み和女子大学専任講師)を迎え、近年掘り起こされた多摩地域に遺された史料からみえてきた新たな新選組像についてお話しいただきました。参加者は36名でした。

令和4年度 企画展(1)

展 示 名	期 間	場 所
ミニ企画展 端午の節句	4/5(火)～5/8(日)	資料館・古民家園
企画展 新収蔵品展	6/14(火)～7/10(日)	資料館
ミニ企画展 七夕飾り	7/1(金)～7/7(木)	資料館・古民家園
企画展 立川の遺跡2022	7/26(火)～9/4(日)	資料館
写真展 立川駅前の移り変わりー発展し続ける街並みー	9/10(土)～10/10(月・祝)	資料館

令和4年度 企画展（2）

展 示 名	期 間	場 所
企画展 多摩川と立川～利水と災害～	10/25 (火)～12/11 (日)	資料館
東京文化財ウィーク2022公開事業 銅鉦鼓展	10/25 (火)～11/27 (日)	資料館
写真展 なつかしの立川ー古写真からみる街の風景ー	12/6 (火)～2/12 (日)	資料館
企画展 暮らしーむかしの道具たちー	1/17 (火)～2/19 (日)	資料館
ミニ企画展 桃の節句	1/31 (火)～3/5 (日)	資料館・ 古民家園

令和4年度 体験学習

場 所	講 座 名	実 施 日	人 数
歴 史 民 俗 資 料 館	藍染め体験ーハンカチを染めてみよう	7/10 (日)	18
	手打ちうどん作りと十五夜飾り	9/11 (日)	23
	もちつきと鏡餅作り	12/18 (日)	29
	繭玉飾り	1/9 (月・祝)	14
	手打ちうどん作り	2/19 (日)	19
古 民 家 園	麦刈り体験	5/29(日)	27
	麦脱穀体験	6/26 (日)	19
	さつま芋収穫体験	10/23 (日)	32
市 内	玉川上水沿いの自然観察	4/8 (金)	14
	市内文化財散歩 玉川上水を歩く	5/15 (日)	16
	市内文化財散歩 玉川上水 downstream を歩く	6/12 (日)	※
	根川と多摩川の自然観察	10/21 (金)	15
	市内文化財散歩 立川の古村を歩く	11/6 (日)	15
	市内文化財散歩 玉川上水 downstream を歩く	11/20 (日)	14
	市内文化財散歩 柴崎分水を歩く	3/19 (日)	18

※荒天のため開催中止

令和4年度 講演会

名 称	会 場	実 施 日	人 数
多摩川と水害ー立川市を中心にー	女性総合センター・アイム	11/3 (木・祝)	27
多摩の地域史料と新選組	女性総合センター・アイム	1/21 (土)	36

令和4年度 出張事業

事業名	実施日	場所
出張講座 昔の道具体験 (市立松中小学校3年生)	1/27 (金)	市立松中小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第五小学校3年生)	2/3 (金)	市立第五小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第九小学校3年生)	2/7 (火)	市立第九小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立若葉台小学校3年生)	2/21 (火)	市立若葉台小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第一小学校3年生)	2/24 (金)	市立第一小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立南砂小学校3年生)	2/28 (火)	市立南砂小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立柏小学校3年生)	3/9 (木)	市立柏小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第七小学校3年生)	3/16 (木)	市立第七小学校

令和4年度 その他事業

事業名	実施日	場所
第18回はた織りまつり・夏	8/28 (日)	資料館
第19回はた織りまつり・春	3/26 (日)	資料館

資料館だより 第27号

発行日 2023年(令和5年)3月31日

編集・発行 立川市歴史民俗資料館

(立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係)

住所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号

TEL:042-525-0860 FAX:042-525-1236